

令和7年度

みやぎの算数教育改善プラン事業モデル地区

登米市の取組

モデル校

登米市立佐沼小学校

登米市立宝江小学校

登米市立豊里小学校

登米市立加賀野小学校

1 事業の概要

(1) 事業年度

令和7年度～令和9年度

(2) モデル地区

登米市、塩竈市 指定期間1年間（3年まで延長可能）

(3) 登米市の指定校

佐沼小学校、宝江小学校、豊里小学校、加賀野小学校

(4) 事業内容

各小学校の実態に応じた算数科の授業改善

AIドリルを活用した学習支援体制の確立

(5) 指定校の取組

① 伴走支援の下に小学校全体で算数科の授業改善に取り組む

② AIドリルを活用したCBT方式の単元テストの実施と学び直しに取り組む

③ 1人1台端末やAIドリルを活用し、授業と家庭学習の効果的な連携の下での家庭学習の充実を図る

(6) 検証のポイント

① 「算数が好き」と答える児童数を増やす

② 「授業が分かる」と答える児童数を増やす

③ 「家庭学習時間」を増やす

2 訪問の実際

(1) 訪問実績

① 参観授業等

	訪問した回数	参観した授業数	指導・助言した教員数
合計	103回	166コマ	63人

※その他、授業づくり相談、校内研究への助言等を実施

② 校内研修会での講義

※要請により、佐沼小学校と豊里小・中学校で実施

③ 登米市指定校研修会の企画・運営

※7月と1月の2回、登米市教育委員会が主催

※総合教育センター課題解決研究の長期研修員、

AIドリル担当者が情報提供者として参加

※塩竈市指定校の担当者がオンライン視聴（希望者）

(2) 訪問日の基本的な一日の流れ

時程	9:00頃	2～4校時	5～6校時	放課後	16:00頃
内容	訪問	授業参観 (2コマ)	授業通覧 資料作成	事後検討	退校

みやぎの算数教育改善プラン事業

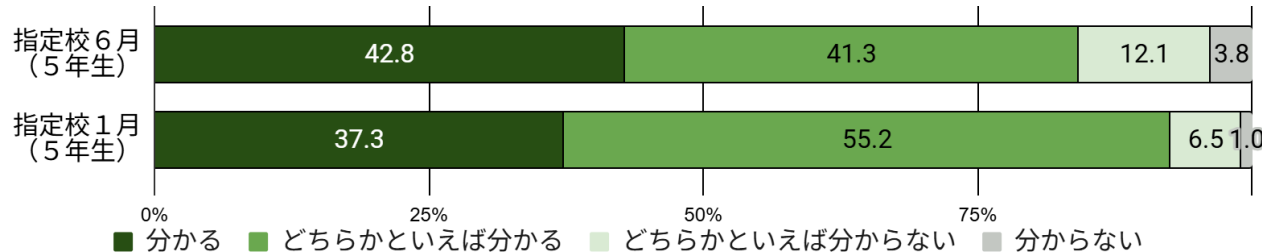
(3) 参観、指導・助言のポイントにしたこと

- ①学習指導要領に示された算数科の目標や内容を踏まえて、問題発見・解決の過程における指導面のよさを見取り、価値付けすること
- ②児童の表情や行動の変容を見取り、教師の授業デザインや働き掛けの効果を伝えること
- ③発問や問い返しによる児童の反応や思考の流れを見取り、最適解を話し合うこと
- ④A Iドリル等のICT活用効果を見取り、共有すること
- ⑤教科書分析
- ⑥学びたくなる学習環境づくり（称賛、シングルタスク、掲示等物等）

3 事業の成果

(1) 検証のポイントから

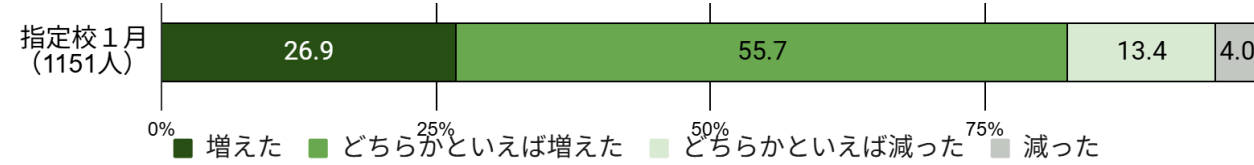
ポイント②「算数が分かる」と答える児童数を増やす



※肯定的な回答 84.1% → 92.5% (+8.4ポイント)

みやぎの算数教育改善プラン事業

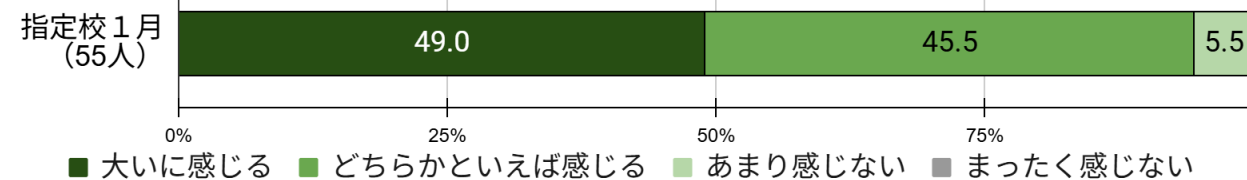
ポイント③「家庭学習時間」を増やす



※肯定的な回答 82.6%

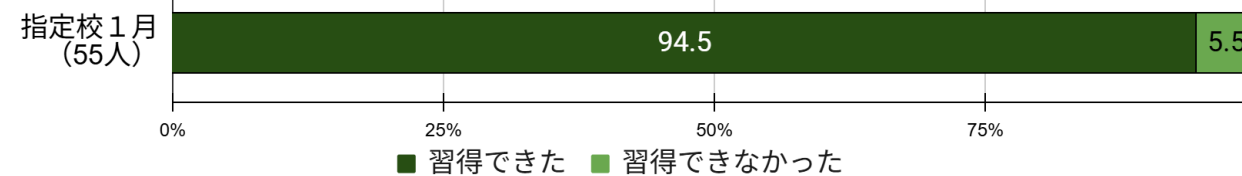
(2) 教員対象アンケートから

①担当指導主事との対話を通して「授業づくりに自信がいた」または「授業づくりの悩みが改善した」と感じるか



※肯定的な回答 94.5%

②「授業で活用できる具体的なスキル」を習得できた



※習得できた 94.5%

みやぎの算数教育改善プラン事業

※習得できたスキル（上位5項目）

1位	2位	3位	4位	5位
AIドリルの活用	授業の構成・組立て	発問の精選と指導技術	実態に応じた個別支援	教材研究の効率化

(3) 管理職対象アンケートから

①定期的に指導主事が訪問して授業を参観することにより、教員に変化は見られたか



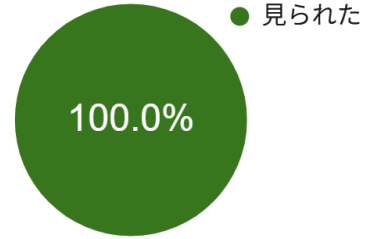
②それはどのような変化か

・授業への取組がより研究に則したものになった。
・積極的に授業改善をしていこうという意識が見られた。
・授業づくりの留意点や児童の反応を大切にされた展開への意識が高まっている。また、研修会の指導助言により、担任個々の取組や工夫が互いの学びにつながり、児童への働きかけや受け止め方についての捉え等の指導技術が高まってきている。
・教材研究により力を入れるようになったと思う。
・指導主事に御指導いただいた具体的な指導法（発問や課題設定、学び合い、評価の仕方など）を生かした授業づくりを進める教員の姿が見られた。

③本事業は、貴校が目指す教育目標の達成に貢献していると思うか



④本事業を通して、教員が授業改善に取り組むことにより、児童の学習への姿勢や取組等に変化が見られたか



⑤それはどのような変化か

・各学年に応じて話合いや発表など変化が見られた。
・学習に意欲的に取り組む様子が見られるようになった。
・分からないままにしない意識、聞き合い、教え合う姿が見られてきている。
・自然に相談できるようになった。
・算数の学習に自信をもって取り組む児童が増えたように感じる。
・児童が自分で学習方法を選択したり、友達と教え合ったりするなど、自立して学習に取り組む姿が見られた。

(4) 登米市標準学力テスト結果から

①指定校の算数正答率について全国平均正答率との乖離を5月と12月で比較

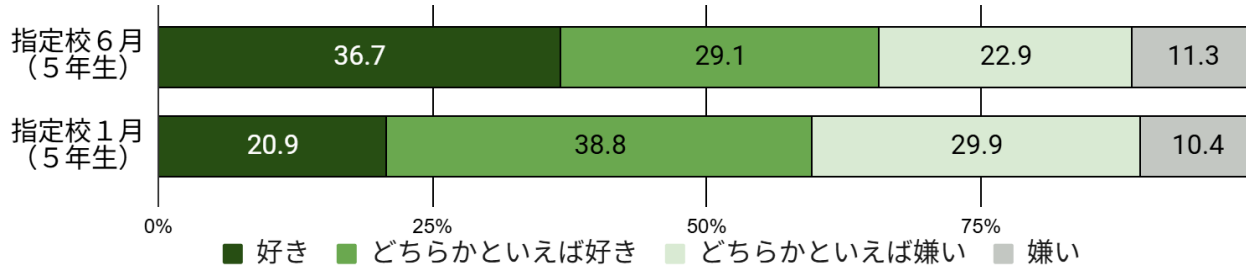
2年生			3年生			4年生			5年生		
全体	基礎	応用	全体	基礎	応用	全体	基礎	応用	全体	基礎	応用
+1.9	-0.2	+4.9	+0.4	-1.0	+1.7	+8.4	+9.7	+3.1	+6.2	+3.2	+13.0

※2～5学年で乖離が改善傾向にあることを確認

4 事業の課題

(1) 検証のポイントから

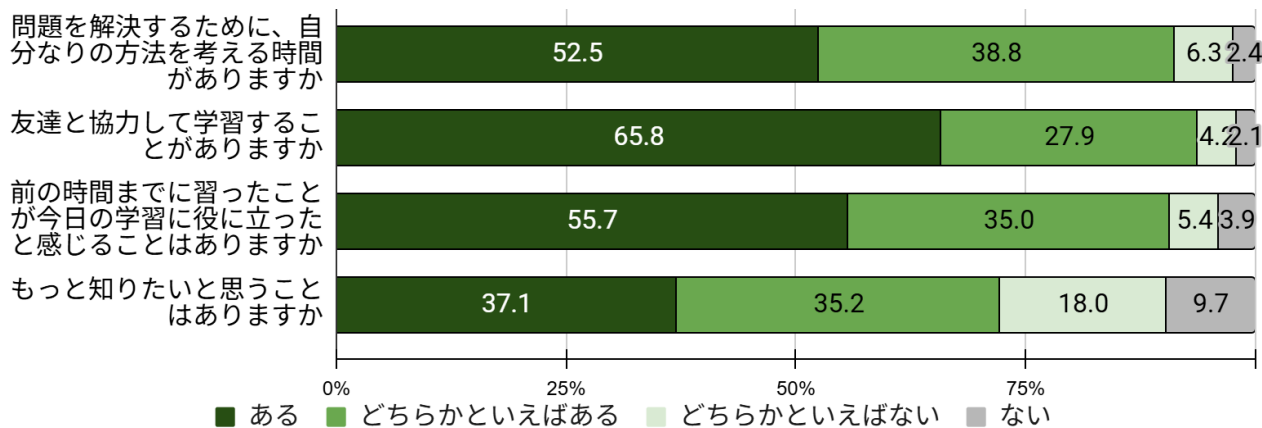
ポイント①「算数が好き」と答える児童数を増やす



※肯定的な回答 65.8% → 59.7% (-6.1ポイント)

(2) 児童対象アンケートから

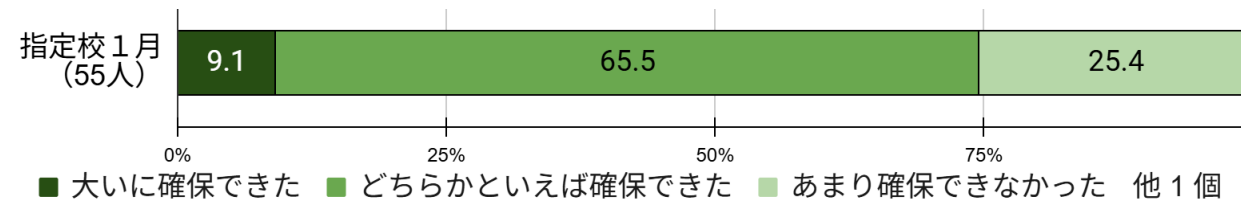
①算数の授業中に関する4つの設問から



※「もっと知りたい」のように、発展的に考えることが課題

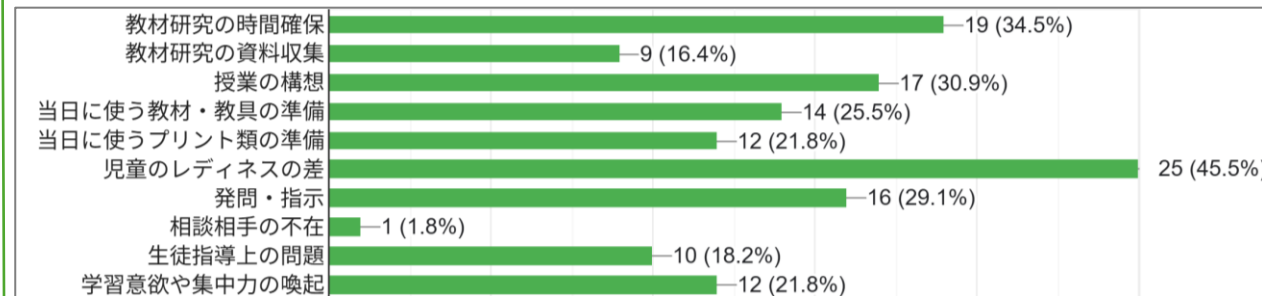
(3) 教員対象アンケートから

①参観授業を実践するための準備時間は確保できましたか

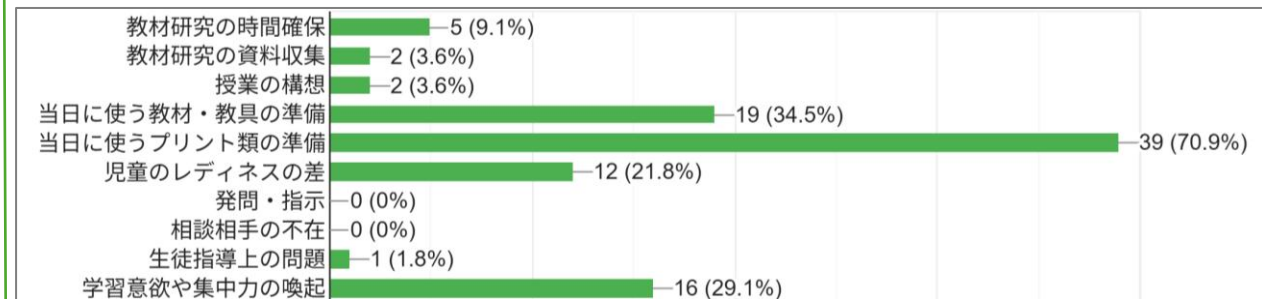


※あまり確保できなかった 25.4%

②授業改善の取組で困難に感じた点



③A Iドリルの活用で減る負担



※A Iドリルの活用で減る負担は、困難の一部に留まる